

# 2021年度 医学部 IR 報告書

— 医学部卒業時における卒業コンピテンス

到達度調査（学生自己評価）—



藤田医科大学 | R推進センター  
医学部 | R分室

2021年4月1日



藤田医科大学 IR推進センター

医学部 IR分室

## 2021 年度 医学部 IR 報告書

— 医学部卒業時における卒業コンピテンス

到達度調査（学生自己評価） —

1. 医学部卒業時における卒業コンピテンス到達度調査（学生自己評価）の概要
2. コンピテンス・コンピテンシー自己評価の集計・分析結果

## 2020 年度 医学部 IR 報告書

### ー 医学部卒業時における 卒業コンピテンス到達度調査（学生自己評価）ー について

本学の教育目標を達成するため、教育及び学生支援に関する諸データの統合分析と情報提供等を行い、本学の教育活動の充実発展に寄与することを目的とし、藤田医科大学 I R（Institutional Research）推進センターが設置されています。今回、下部組織の医学部 I R 分室では、2020 年度卒業生を対象として卒業時卒業コンピテンス・コンピテンシーの到達度調査（学生自己評価）を実施・分析しましたので、結果についてご報告致します。

2021 年 4 月 1 日

2020 年度 藤田医科大学 I R 推進センター 医学部 I R 分室

飯塚成志、古澤彰浩、一瀬千穂、若月徹、川戸美由紀、藤江里衣子、

山本正樹、中村早紀、島向健太、横田正明

## 1. 医学部卒業時におけるコンピテンス到達度調査（学生自己評価）の概要

### 1－1）背景と目的

本学医学部は従来プロセス基盤型教育を行ってきたが、2015 年度第 1～3 学年よりアウトカム（学習成果）基盤型教育を採り入れた新カリキュラムに移行している。これに伴い医学部の使命に基づき、卒業時にすべての本学卒業生が身につける能力として「卒業コンピテンス（I～VII の 7 領域）」「卒業コンピテンシー（計 37 領域、現在 35 領域）」を定めた。低学年から各科目で、テーマに沿って段階的に実践力（応用力）を積み上げていき、卒業時に身につける能力をパフォーマンス・レベルとして評価するものである。

このような手法は全国の多くの医学部・医科大学で採用されているが、現時点では卒業コンピテンス・コンピテンシーの多くの項目に対する有効な評価方法は確立していない。知識や診察・診療技術は従来型の様々な試験で評価可能としても、プロフェッショナリズム・コミュニケーション能力・専門職連携の実践・独創的探究心等が卒業時に「実践できる」ことをどのような手法で評価するのかは難しい問題である。そもそもどの程度、どう実践できればよいかの基準が明確となっていない。従来こうした項目は信頼性・妥当性を有する方法では評価されずに、あるいは評価のないままに卒業させていたということもできる。

しかしながらこうした項目について、各学年においてどの程度修得しているかを調査し、カリキュラムに反映させていくことの重要性は論を待たない。そこで 2017 年度以降、各学年、および卒業時において、卒業コンピテンス・コンピテンシー到達度の自己評価アンケートを実施している。結果は医学部のカリキュラム全体を俯瞰した改善に資するため、利用するものとする。

### 1－2）実施方法

2020 年度医学部卒業見込の学生に協力を仰ぎ、医師国家試験終了後卒業式前までの期間にアンケートを実施した。学生自身が卒業時に、卒業コンピテンシー 35 項目のそれぞれに対しどの程度到達していると考えるかについて、6 段階リッカート尺度により自己評価を得た。「4」を自身の考える最低水準が修得できたものとしている。アンケートはオンライン調査票を用いた。学生への案内文、および調査票を巻末に示す。

## 2. 卒業コンピテンス・コンピテンシー自己評価の集計・分析結果

卒業コンピテンス・コンピテンシー自己評価の調査結果を以下に示す。

### 2-1) 実施状況

自己評価調査の実施状況を示す。

対 象 者： 104 名（2020 年度医学部卒業生）

調査期間： 2021 年 2 月 8 日（月）～3 月 14 日

回 答 者： 67 名（回答率 64.4 %）

調査は医師国家試験実施翌日に大学に集合した学生に依頼文（巻末）を配布した上で、Google フォームによりオンラインで実施した。調査内容を巻末に示す。学籍番号を記載する欄が設けてあるが、集計時に重複回答を除外するためだけに使用し、データクリーニング後は連結不可能匿名化データとして解析を行った。

### 2-2) 集計結果

各項目自己評価リッカート尺度平均の集計結果一覧、およびグラフにしたものが図 1 である。各コンピテンスの平均と SD は、その下位コンピテンシー項目の全平均・全 SD により算出した。

### 2-3) 分析結果

今回のコンピテンシー項目は 2020 年度入学生から改訂された新しい項目であり、今回の対象者に対しては直接的に導入されていない項目を含む。しかしながら新項目は旧項目の文言や内容を明確にしたり、時代に合わせたりするために修正・導入された項目であり、また 2019 年度以降は修正前の内容と整合性を取りつつ、新規コンピテンシーが全学年カリキュラムに導入されている。今後同様の調査を全学年を対象として経年的に行っていくにあたり、改善の成果の比較が可能となることを踏まえ、新コンピテンシーを使用して自己評価を実施した。

本調査は 2017 年より質問紙により実施されていたが、COVID-19 感染拡大の影響等により対面での質問紙調査を実施できなかったため、Google フォームを使用してオンラインにより実施した。実質的な匿名調査だということもあり、回答率は 64.4%と例年に比較して低くなっていたが、全体の傾向をみる上では十分と考えられる。

6 段階評価の平均は 35 項目のコンピテンシーいずれの項目においても 3.970～5.254 の範囲であり、全項目の平均は 4.816 であった。「最低限は修得できた」を 4 と評価していることを踏まえると、卒業時の段階で多くの項目を最低限は修得できた、と考えている学生が多数と言える。絶対評価としての信頼性・妥当性は不明であるが、各項目間の評価を比較すると、際立った一定の傾向が見いだされる。

特にプロフェッショナリズム・コミュニケーション能力・専門職連携の 3 コンピテンスが高評価であり、それらの下位コンピテンシーでも高い自己評価がなされていた。特に「III 専門職連携」が最も高

くなっており（平均 5.035）、アセンブリ精神を特色とし重きを置く本学教育の効果と考えられる。

下位コンピテンシーとしては「I-4. 個人の尊厳を尊重し、利他的、共感的に対応できる。」（平均 5.254）のコンピテンシーが際立って高評価となっており、共感と利他に基づく人間関係構築について十分に修得したと自己評価していることが読み取れる。次いで「I-3. 医療倫理について理解し、それに基づいて行動ができる。」（平均 5.134）、「VI-10 個人情報保護を理解し、遵守できる」（平均 5.104）が高評価であり、医療倫理・個人情報保護など、プロフェッショナリズム教育については効果を上げることができたと考えられる。

一方低評価のコンピテンシーに着目すると、「V-4. 海外での研究に従事することができる基礎的な語学力を有する。」が平均 3.970 と最も低い評価であり、ついで「IV-3. 診療に必要な基礎的な医学英語力を有する。」が低評価であった（平均 4.418）。本学医学部では1～3年生では英語教育に力を入れており、Native Speaker を講師とする少人数教育も行われているため、残念な結果である。ただし、ここで語学力は単なる「英語力」「英会話力」ではなく「海外で研究に従事できる・・・」「診療に必要な・・・」語学力であり、いずれも本学カリキュラムをみると英語（もしくはその他の言語）で実践的に行われているとは言いがたい。卒業生たちが低評価をつけたこともうなずける。

英語教育は本学医学部では重点課題として取り上げられ、様々なカリキュラム改善の試みがなされているところであり、その効果に期待したいところであるが、研究や診療の実践に直結する英語教育は依然として不十分である。今後は医学研究実習や臨床実習等の一環として組み入れられた形で、研究・医療に必要な実践的英語教育の導入も検討されるべきであろう。

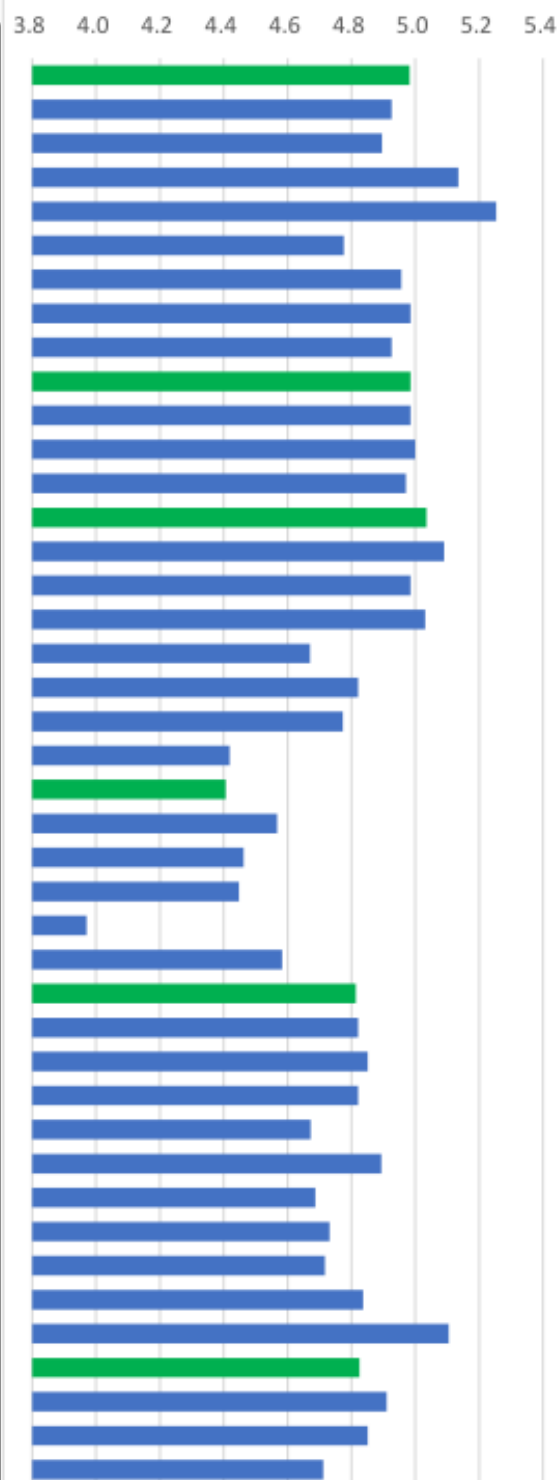
一方、コンピテンス「V 独創的探究心」の語学力以外の下位項目も低評価である。例年報告書で指摘されていることであるが、藤田ビジョンで目標に掲げられている「研究マインドの涵養」が重要な課題であることが浮き彫りとなった。2020年度から3年生の2月に4週間、研究室で医学研究の実際を学ぶ「医学研究演習」が導入されることもあり、今後はこの効果について注視したい。また他学年でも学術論文を読み討論したり、内容を発表するなど、各学年で研究マインド涵養を目指すカリキュラム導入をさらに検討すべきであろう。

図 1. 2020年度医学部卒業生 卒業コンピテンス／コンピテンシー自己評価

有効回答率 64.4 % (104名中67名) 全項目の平均は4.816 SDは0.825

| コンピテンス／コンピテンシー項目                                 | 平均    | S D   |
|--------------------------------------------------|-------|-------|
| I 医師としてのプロフェッショナリズム                              | 4.981 | 0.716 |
| 1 医師として常態ある行動がとれる。                               | 4.925 | 0.785 |
| 2 医療にかかわる法令を理解し遵守できる。                            | 4.896 | 0.677 |
| 3 医療倫理について理解し、それに基づいて行動ができる。                     | 5.134 | 0.625 |
| 4 個人の尊厳を尊重し、利他的、共感的に対応できる。                       | 5.254 | 0.659 |
| 5 自己評価を怠らず、自己研鑽できる。                              | 4.776 | 0.775 |
| 6 適切な助言、指導ができ、助言、指導を受け入れることができる。                 | 4.955 | 0.684 |
| 7 社会から期待される医師の役割を説明できる。                          | 4.985 | 0.540 |
| 8 生涯にわたって自律的に学び続けることができる。                        | 4.925 | 0.858 |
| II コミュニケーション能力                                   | 4.985 | 0.738 |
| 1 患者ならびに家族との良好な人間関係が構築できる。                       | 4.985 | 0.807 |
| 2 患者の心理・社会的背景を踏まえながら、患者ならびに家族の意思決定を支援できる。        | 5.000 | 0.651 |
| 3 医療スタッフとの円滑な意思疎通ができる。                           | 4.970 | 0.758 |
| III 専門職連携                                        | 5.035 | 0.643 |
| 1 他職種との役割を理解し、尊重することができる。                        | 5.090 | 0.668 |
| 2 医師の役割を理解し、これに基づいて行動することができる。                   | 4.985 | 0.639 |
| 3 患者の健康問題を解決するために、多職種で協力することができる。                | 5.030 | 0.705 |
| IV 医学および関連領域の知識                                  | 4.670 | 0.857 |
| 1 人体の正常な構造と機能発達、成長・加齢、死などの生命現象および心理・行動について説明できる。 | 4.821 | 0.650 |
| 2 患者の病態・診断・治療を医学やEBMなどの根拠に基づいて説明できる。             | 4.773 | 0.760 |
| 3 診療に必要な基礎的な医学英語力を有する。                           | 4.418 | 1.061 |
| V 独創的探究心                                         | 4.406 | 1.101 |
| 1 自らの考えや疑問点を検証するための科学的方法を学び、学術・研究活動に参与することができる。  | 4.567 | 0.925 |
| 2 論文等の情報を適切に収集することができる。                          | 4.463 | 1.049 |
| 3 収集した情報を論理的、批判的に吟味し、自分の意見を加えて発表できる。             | 4.448 | 0.989 |
| 4 海外での研究に従事することができる基礎的な語学力を有する。                  | 3.970 | 1.446 |
| 5 研究倫理・コンプライアンス・利益相反(COI)について理解する。               | 4.582 | 0.924 |
| VI 診療の実践                                         | 4.813 | 0.734 |
| 1 病歴を正確に聴取し、必要な身体診察ができる。                         | 4.821 | 0.650 |
| 2 基本的臨床手技を安全に実施できる。                              | 4.851 | 0.702 |
| 3 病歴・身体所見より鑑別診断を挙げ、必要な検査を選択し、その結果を評価できる。         | 4.821 | 0.673 |
| 4 頻度、又は、緊急性や重症度の高い疾患・病態の診断・治療の計画を立てることができる。      | 4.672 | 0.786 |
| 5 診療計画を立てる際、患者や家族の価値観を考慮できる。                     | 4.894 | 0.704 |
| 6 診療録を正確に記載し、診療情報をプレゼンテーションすることができる。             | 4.687 | 0.783 |
| 7 症例についての要約(サマリー)を作成し、情報共有することができる。              | 4.731 | 0.730 |
| 8 病状説明や患者教育に参加することができる。                          | 4.716 | 0.813 |
| 9 安全な医療を提供できる。                                   | 4.836 | 0.687 |
| 10 個人情報保護を理解し、厳守できる。                             | 5.104 | 0.741 |
| VII 社会と医療                                        | 4.825 | 0.798 |
| 1 社会と健康の係わりを理解し、疾病予防と健康増進に取り組むことができる。            | 4.910 | 0.712 |
| 2 保健・医療・福祉の現状を把握し、社会資源を活用してその改善を図ることができる。        | 4.851 | 0.723 |
| 3 地域医療・介護に貢献することができる。                            | 4.712 | 0.941 |

各項目平均値



次ページ以降に調査の案内文と調査票を示す。

## <アンケート依頼文>

2021 年 3 月に卒業される皆様

2021 年 2 月 8 日

医学部 IR 分室

2 日間の国家試験、お疲れさまでした。

さて卒業を控え、医学部 IR 分室より、調査ご協力をお願いします。

(IR は Institutional Research の略で、組織内の様々な調査を行い、解析・分析を行います。)

本学医学部では学生が卒業時に「できるようになっていること」を掲げた上で、それらを修得・達成できるように各学年のカリキュラムを構成しています。この「できるようになっていること」は 7 項目のコンピテンス、およびそれらの下位項目 35 項目のコンピテンシーから成り立っています。自己評価としてどの程度修得しているか、を卒業直前時点で毎年調査を行い、この分析結果を元にカリキュラムの改定を行っています。

これら項目は昨年 9 月に実施したものと同一ですが、今回は卒業を目前に控えた現時点での自己評価をお願いしたいと思います。

調査ページへの QR コードを示します。



カリキュラム設計のための調査です。必ずご協力をお願いします。

以上。

## <Google フォームによるオンラインアンケート文>

### 卒業コンピテンス・コンピテンシー到達度調査

2日間の国家試験でお疲れのところ大変恐縮ですが、アンケート調査にご協力ください。  
あなたの考える卒業生としての最低水準を4とし、各項目について自身を6段階で自己評価してください。  
項目数は35項目あります。  
(この項目は昨年9月に行った内容と同一ですが、今回は現時点でどの程度修得しているかをご回答願います)

#### I-1 医師として常識ある行動がとれる。

- ☐ 完全に修得できた
- ☐ 概ね修得できた
- ☐ 最低水準は修得できた
- ☐ ある程度修得したが、最低水準には届かない
- ☐ 十分に修得できていない
- ☐ 全く修得できていない

#### I-2 医療にかかわる法令を理解し遵守できる。

- ☐ 完全に修得できた
- ☐ 概ね修得できた
- ☐ 最低水準は修得できた
- ☐ ある程度修得したが、最低水準には届かない
- ☐ 十分に修得できていない
- ☐ 全く修得できていない

#### I-3 医療倫理について理解し、それに基づいて行動ができる。

- ☐ 完全に修得できた
- ☐ 概ね修得できた
- ☐ 最低水準は修得できた
- ☐ ある程度修得したが、最低水準には届かない
- ☐ 全く修得できていない

I-4 個人の尊厳を尊重し、利他的、共感的に対応できる。

- ☐ 完全に修得できた
- ☐ 概ね修得できた
- ☐ 最低水準は修得できた
- ☐ ある程度修得したが、最低水準には届かない
- ☐ 十分に修得できていない
- ☐ 全く修得できていない

I-5 自己評価を怠らず、自己研鑽できる。

- ☐ 完全に修得できた
- ☐ 概ね修得できた
- ☐ 最低水準は修得できた
- ☐ ある程度修得したが、最低水準には届かない
- ☐ 十分に修得できていない
- ☐ 全く修得できていない

I-6 適切な助言、指導ができ、助言、指導を受け入れることができる。

- ☐ 完全に修得できた
- ☐ 概ね修得できた
- ☐ 最低水準は修得できた
- ☐ ある程度修得したが、最低水準には届かない
- ☐ 十分に修得できていない
- ☐ 全く修得できていない

I-7 社会から期待される医師の役割を説明できる。

- ☐ 完全に修得できた
- ☐ 概ね修得できた
- ☐ 最低水準は修得できた
- ☐ ある程度修得したが、最低水準には届かない
- ☐ 十分に修得できていない
- ☐ 全く修得できていない

I-8 生涯にわたって自律的に学び続けることができる。

- ☐ 完全に修得できた
- ☐ 概ね修得できた
- ☐ 最低水準は修得できた
- ☐ ある程度修得したが、最低水準には届かない
- ☐ 十分に修得できていない
- ☐ 全く修得できていない

II-1 患者ならびに家族との良好な人間関係が構築できる。

- ☐ 完全に修得できた
- ☐ 概ね修得できた
- ☐ 最低水準は修得できた
- ☐ ある程度修得したが、最低水準には届かない
- ☐ 十分に修得できていない
- ☐ 全く修得できていない

Ⅱ-2 患者の心理・社会的背景を踏まえながら、患者ならびに家族の意思決定を支援できる。

- ☐ 完全に修得できた
- ☐ 概ね修得できた
- ☐ 最低水準は修得できた
- ☐ ある程度修得したが、最低水準には届かない
- ☐ 十分に修得できていない
- ☐ 全く修得できていない

Ⅱ-3 医療スタッフとの円滑な意思疎通ができる。

- ☐ 完全に修得できた
- ☐ 概ね修得できた
- ☐ 最低水準は修得できた
- ☐ ある程度修得したが、最低水準には届かない
- ☐ 十分に修得できていない
- ☐ 全く修得できていない

Ⅲ-1 他職種の役割を理解し、尊重することができる。

- ☐ 完全に修得できた
- ☐ 概ね修得できた
- ☐ 最低水準は修得できた
- ☐ ある程度修得したが、最低水準には届かない
- ☐ 十分に修得できていない
- ☐ 全く修得できていない

Ⅲ-2 医師の役割を理解し、これに基づいて行動することができる。

- ☐ 完全に修得できた
- ☐ 概ね修得できた
- ☐ 最低水準は修得できた
- ☐ ある程度修得したが、最低水準には届かない
- ☐ 十分に修得できていない
- ☐ 全く修得できていない

Ⅲ-3 患者の健康問題を解決するために、多職種で協力することができる。

- ☐ 完全に修得できた
- ☐ 概ね修得できた
- ☐ 最低水準は修得できた
- ☐ ある程度修得したが、最低水準には届かない
- ☐ 十分に修得できていない
- ☐ 全く修得できていない

Ⅳ-1 人体の正常な構造と機能発達・成長・加齢・死などの生命現象および心理・行動について説明できる。

- ☐ 完全に修得できた
- ☐ 概ね修得できた
- ☐ 最低水準は修得できた
- ☐ ある程度修得したが、最低水準には届かない
- ☐ 十分に修得できていない
- ☐ 全く修得できていない

IV-2 患者の病態・診断・治療を医科学やEBMなどの根拠に基づいて説明できる。

- ☐ 完全に修得できた
- ☐ 概ね修得できた
- ☐ 最低水準は修得できた
- ☐ ある程度修得したが、最低水準には届かない
- ☐ 十分に修得できていない
- ☐ 全く修得できていない

IV-3 診療に必要な基礎的な医学英語力を有する。

- ☐ 完全に修得できた
- ☐ 概ね修得できた
- ☐ 最低水準は修得できた
- ☐ ある程度修得したが、最低水準には届かない
- ☐ 十分に修得できていない
- ☐ 全く修得できていない

V-1 自らの考えや疑問点を検証するための科学的方法論を学び、学術・研究活動に関与することができる。

- ☐ 完全に修得できた
- ☐ 概ね修得できた
- ☐ 最低水準は修得できた
- ☐ ある程度修得したが、最低水準には届かない
- ☐ 十分に修得できていない
- ☐ 全く修得できていない

V-2 論文等の情報を適切に収集することができる。

- ☐ 完全に修得できた
- ☐ 概ね修得できた
- ☐ 最低水準は修得できた
- ☐ ある程度修得したが、最低水準には届かない
- ☐ 十分に修得できていない
- ☐ 全く修得できていない

V-3 収集した情報を論理的、批判的に吟味し、自分の意見を加えて発表できる。

- ☐ 完全に修得できた
- ☐ 概ね修得できた
- ☐ 最低水準は修得できた
- ☐ ある程度修得したが、最低水準には届かない
- ☐ 十分に修得できていない
- ☐ 全く修得できていない

V-4 海外での研究に従事することができる基礎的な語学力を有する。

- ☐ 完全に修得できた
- ☐ 概ね修得できた
- ☐ 最低水準は修得できた
- ☐ ある程度修得したが、最低水準には届かない
- ☐ 十分に修得できていない
- ☐ 全く修得できていない

V-5 研究倫理・コンプライアンス・利益相反（COI）について理解する。

- ☐ 完全に修得できた
- ☐ 概ね修得できた
- ☐ 最低水準は修得できた
- ☐ ある程度修得したが、最低水準には届かない
- ☐ 十分に修得できていない
- ☐ 全く修得できていない

VI-1 病歴を正確に聴取し、必要な身体診察ができる。

- ☐ 完全に修得できた
- ☐ 概ね修得できた
- ☐ 最低水準は修得できた
- ☐ ある程度修得したが、最低水準には届かない
- ☐ 十分に修得できていない
- ☐ 全く修得できていない

VI-2 基本的臨床手技を安全に実施できる。

- ☐ 完全に修得できた
- ☐ 概ね修得できた
- ☐ 最低水準は修得できた
- ☐ ある程度修得したが、最低水準には届かない
- ☐ 十分に修得できていない
- ☐ 全く修得できていない

VI-3 病歴・身体所見より鑑別診断を挙げ、必要な検査を選択し、その結果を評価できる。

- ☐ 完全に修得できた
- ☐ 概ね修得できた
- ☐ 最低水準は修得できた
- ☐ ある程度修得したが、最低水準には届かない
- ☐ 十分に修得できていない
- ☐ 全く修得できていない

VI-4 頻度、又は、緊急性や重症度の高い疾患・病態の診断・治療の計画を立てることができる。

- ☐ 完全に修得できた
- ☐ 概ね修得できた
- ☐ 最低水準は修得できた
- ☐ ある程度修得したが、最低水準には届かない
- ☐ 十分に修得できていない
- ☐ 全く修得できていない

VI-5 診療計画を立てる際、患者や家族の価値観を考慮できる。

- ☐ 完全に修得できた
- ☐ 概ね修得できた
- ☐ 最低水準は修得できた
- ☐ ある程度修得したが、最低水準には届かない
- ☐ 十分に修得できていない
- ☐ 全く修得できていない

VI-6 診療録を正確に記載し、診療情報をプレゼンテーションすることができる。

- ☐ 完全に修得できた
- ☐ 概ね修得できた
- ☐ 最低水準は修得できた
- ☐ ある程度修得したが、最低水準には届かない
- ☐ 十分に修得できていない
- ☐ 全く修得できていない

VI-7 症例についての要約（サマリー）を作成し、情報共有することができる。

- ☐ 完全に修得できた
- ☐ 概ね修得できた
- ☐ 最低水準は修得できた
- ☐ ある程度修得したが、最低水準には届かない
- ☐ 十分に修得できていない
- ☐ 全く修得できていない

VI-8 病状説明や患者教育に参加することができる。

- ☐ 完全に修得できた
- ☐ 概ね修得できた
- ☐ 最低水準は修得できた
- ☐ ある程度修得したが、最低水準には届かない
- ☐ 十分に修得できていない
- ☐ 全く修得できていない

VI-9 安全な医療を提供できる。

- ☐ 完全に修得できた
- ☐ 概ね修得できた
- ☐ 最低水準は修得できた
- ☐ ある程度修得したが、最低水準には届かない
- ☐ 十分に修得できていない
- ☐ 全く修得できていない

VI-10 個人情報保護を理解し、厳守できる。

- ☐ 完全に修得できた
- ☐ 概ね修得できた
- ☐ 最低水準は修得できた
- ☐ ある程度修得したが、最低水準には届かない
- ☐ 十分に修得できていない
- ☐ 全く修得できていない

VII-1 社会と健康の係わりを理解し、疾病予防と健康増進に取り組むことができる。

- ☐ 完全に修得できた
- ☐ 概ね修得できた
- ☐ 最低水準は修得できた
- ☐ ある程度修得したが、最低水準には届かない
- ☐ 十分に修得できていない
- ☐ 全く修得できていない

Ⅶ-2 保健・医療・福祉の現状を把握し、社会資源を活用してその改善を図ることができる。

- ☐ 完全に修得できた
- ☐ 概ね修得できた
- ☐ 最低水準は修得できた
- ☐ ある程度修得したが、最低水準には届かない
- ☐ 十分に修得できていない
- ☐ 全く修得できていない

Ⅶ-3 地域医療・介護に貢献することができる。

- ☐ 完全に修得できた
- ☐ 概ね修得できた
- ☐ 最低水準は修得できた
- ☐ ある程度修得したが、最低水準には届かない
- ☐ 十分に修得できていない
- ☐ 全く修得できていない

質問は以上です。学籍番号をご入力頂ければ幸いです。（重複解答を排除するためです。このアンケートは完全に匿名化して集計・解析されます）

記述式テキスト（短文回答）

.....